

国連、省庁、JICA、大学・研究所、NGO、民間企業、栄養に関する専門人材等が参画し、横断的な情報共有と協働により、以下を実施する。

戦略 ①～⑥

- ① 栄養改善の重要性に関するアドボカシー
- ② 栄養支援のベースとなる基礎調査
- ③ 栄養不良の高負担国における支援実施
- ④ 費用対効果分析などの科学的論文に耐えるレベルのエビデンスの蓄積
- ⑤ リソース（ドナーと途上国の橋渡し）
- ⑥ 人材育成

具体的なアクション

栄養に特化した介入

Nutrition Specific Intervention

- **栄養不良が深刻な地域**(紛争、気候変動の影響による自然災害や食料価格高騰が予測される地域) への**支援実施**
- 国際協調を通じた**支援の拡充**
- 日本の国民健康・栄養調査や官民の知見や経験を基にした**基礎的な栄養調査・インパクト評価・調査研究の拡充**
- **サーベイランスシステム構築への支援**
- 「食事バランスガイド」などによる栄養教育の経験を生かした「**乳幼児摂食習慣 (Infant and Young Child Feeding)**」のための**技術支援**

栄養に配慮した介入

Nutrition Sensitive Interventions

栄養不良高負担国における支援において、日本の食事バランスを考慮した「**和食文化**」や、「**食育**」のコンセプトを基にした、現地風土に根ざした「**栄養に配慮した健康な食生活の普及モデル**」の構築を目指す。

【具体的な支援内容】

日本の知見・経験分野である、生産者による相互扶助システム、学校給食、栄養士制度などの組織的なノウハウを活用し、以下に取り組む。

- ① **栄養政策確立**
- ② **人材育成**
- ③ **栄養教育※1**
- ④ **生産※2**

官民連携を活用し、持続可能なビジネス確立

現地でのマルチセクター連携により、**標準指標データ収集と調査研究から効果的な実証**

※1 (女性のエンパワメントの視点からコミュニティでの栄養の理解を向上させるための教育支援)

※2 (家族農業の推進を柱とし、生産から消費までのバリューチェーンでの損失を最小化し、栄養改善効果を最大化する技術支援)

栄養支援の環境整備

以下により、**日本の経験と知見を生かした国際栄養への取組みを世界に発信できる体制を作る。**

- **成長戦略への関係性を軸にした官邸への提言**
- **G7、TICADなどにおけるアドボカシーの強化**
- 栄養士、保健師、愛育委員などのコミュニティ・ベースの栄養に関する専門の人材や医薬基盤・健康・栄養研究所などを**国際的な研究者や実践者のネットワークに結びつける仕組みを構築**
- **エビデンス蓄積とアドボカシーのリンクの強化**
- 支援事業対象の**国際栄養調査研究の資金の整備と実施**
- 国連、省庁、JICA、大学・研究所、NGO、民間企業、栄養に関する専門人材に**またがる横断的な情報共有ネットワークを構築・強化**